

主題 情報社会をよりよく生きる児童の育成

副題～「情報モラル指導パッケージ」を活用した指導を通して～

さいたま市立文蔵小学校

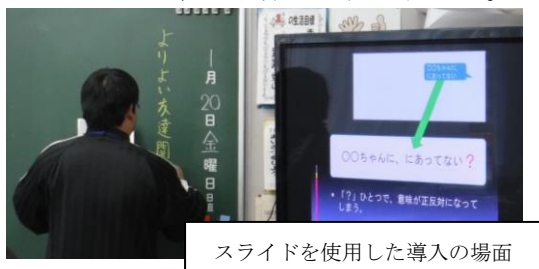
1 ねらい

「情報モラル指導パッケージ」を活用し、情報ネットワーク社会を、よりよく生きるために必要な情報モラルを養う。

2 実施学年及び取組の概要

情報モラルの育成のために、以下のような実践をした。

- (1) 実施学年 第5学年
- (2) 取組の概要 「情報モラル指導パッケージ」を活用して、「友情・信頼」をねらいとして道徳の授業の公開を行った。



スライドを使用した導入の場面



資料をもとに話し合いの場面

3 授業の展開と感想

- (1) メールやSNSの使用状況に関して、自分たちの実態を知る。
- (2) デジタル教材のスライドを使用して、本時のめあてを確認する。
- (3) 資料（私たちの道徳「知らない間の出来事」）をもとに話し合う。
- (4) 自分の考えを発表する。（・児童の感想）
 - ・信頼関係を築くために、みんなとなかよくする。
 - ・自分がされていやなことは、絶対にしない。
 - ・嘘をつかないで、自分の素直な気持ちを言う。
 - ・メールを使う時は、しっかりと内容を読み直して責任をもって送信する。
 - ・メールだけでなく、直接話すことも大切さが分かった。
 - ・相手の立場になって深く考えることが大事だと思う。
 - ・間違えたことや悪いと思ったことは、すぐにあやまる。
- (5) 振り返り

4 成果と今後の課題

○児童は、メールやSNS等の利便性や危険性を理解することができた。また、メールやSNSの使い方だけでなく、直接相手と関わることの大切さを実感することができた。

△事前の調査では、携帯電話やスマートフォンを所持している児童が1/3、自分のものは持っていないでも使ったことがある児童が1/3で、合わせると7割近くの児童が、実際にメールやSNSの使用経験があることが分かった。思わぬトラブルにつながる可能性もあるため、小学校でも、高学年だけを対象とするのではなく、低学年から、教育活動の全体を通して発達の段階及び児童の実態に合わせて系統的に指導していき、情報モラルを養う必要がある。